

令和8年度学校評価計画書

R8

R7

経営目標	取組内容	主担当	現状	評価の指標	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	調査対象者 調査期間	R7前期			R7後期		
									達成度	(4の割合)	判定	達成度	(4の割合)	判定
(1) 主体的に考え 表現する子の育成	ア★「資質・能力の育成につながる子供主体の授業づくり」に向けて、研究の重点を意識した組織的・計画的な授業実践	学力向上部 高澤	○自分の考えをもつため、学び方等を選択する授業になるよう意識している教員が多い。また児童は学び方を選択し、友達と進んで話し合う姿が見られる。 △「学びの木」を活用した学び方の選択の意識が教師児童ともに薄れてきている。 △誤答を気にして、自分の考えを伝えたり表現したりすることが苦手だと感じている児童が多い。 ○単元構想シートを活用するなどして、教科の見方・考え方を意識して教材研究に取り組んでいる。 △児童に見方・考え方という用語が浸透したものの、クラス間差や教師と児童の意識にズレが見られる。	満足度	S:授業で、自分の考えをもち、伝え合う・発表する・まとめるなどして、自分の考えを表現している。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:90%以上 B:80%～90% C:60%～80% D:60%未満	全児童 7・12月				81%	41%	B
				努力	T:児童が主体的に考え、表現するための手立てを講じている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:90%以上 B:80%～90% C:60%～80% D:60%未満	全教員 7・12月				100%	72%	A
				満足度	S:授業では、「見方・考え方」を働かせて、自分の考えをもったり、学び合ったりしている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:90%以上 B:80%～90% C:60%～80% D:60%未満	全児童 7・12月				89%	56%	B
				努力	T:学校研究の重点「教科の見方・考え方を働かせられる意図的な仕掛け」をするために、日頃から意識して授業に取り組んでいる。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:90%以上 B:80%～90% C:60%～80% D:60%未満	全教員 7・12月				100%	67%	A
	イ 考えの表現・基礎学力の定着のための指導	学力向上部 宮谷	○基礎学力の向上に向けて全校で個に応じた指導に取り組んでいる。アンケート結果からも教師の意識は高いと言える。 △学期末テスト実施に向けた取組(復習にかける期間や個の理解度に応じた支援)については、教師間で差があると考えられ、十分に定着しているとは言えない。	努力	T:朝学や補充学習、検証テストを通して、基礎学力を身に付けさせるための指導を個に応じて行っている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	全教員 7・12月				100%	78%	A
				成果	点数:学期末テスト(国語、算数)の各学級平均点が全国平均を上回った割合	4:全国平均+3点以上 3:全国平均以上+3点未満 2:全国平均未満-3点未満 1:全国平均-3点以上	○4+3が (国、算のテスト結果) A:22学級以上 B:20学級以上 C:15学級以上 D:14学級以下	学期末テスト				46%	25%	D
	ウ 学力調査等の分析による自校の弱点の補充とその検証	学力向上部 西田	○問題に線や丸を書いて、問題で何を聞かれているか明らかにしながら解こうとしている。 △条件を正確に捉えたり、用語やキーワードを使って最後まで書き切ったりすることが弱い。	努力	T:児童に用語やキーワードを使って書きさせたり、丸囲み・線引きの指導をしたりしている。→朝学の活用力問題の時間を有効に使い指導している。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 2:あてはまらない	A:4が80%以上 B:4+3が80%以上 C:60%～80%未満 D:60%未満	全教員 7・12月				100%	67%	B
				成果	点数:各学級における検証問題(国語・算数)を条件に沿って解答している児童の割合。	検証問題の期待正答率を達成したクラスの割合で判断する(12クラス)	A:10学級以上 B: 9学級 C: 8学級 D: 7学級以下	全児童 7・12月				50%		C
(2) 自ら考え 健康・安全な生活を 送ろうとする子の育成	ア 健康的な生活習慣を定着させるための取組	保健安全指導部	○基本的生活習慣の定着が見られるようになってきた。 △口腔内の課題は改善しつつあったが、虫歯の保有率がまた増加傾向にある。特に低学年の虫歯の保有率が高い。歯の健康について、学校と保護者が一体となった指導を行い、歯磨きの習慣をつけていく必要がある。	成果	S:朝・昼・夜と一日3回歯磨きをしている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	全児童 7・12月				86%	52%	B
				成果	P:子供の歯磨きが習慣化するように努めている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	全保護者 7・12月				97%	69%	A
	イ★安全への意識を高める指導と危機管理能力の向上	板井	○安全点検を確実にに行い、安全な環境になるよう努めている。 △授業や行事を行うにあたって事前の確認や環境整備が万全に行われていない。	成果	T:児童の安全を維持・管理するために事前の確認をしたり、教育環境を整えたりしている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	全教員 7・12月				100%	94%	A

(3) 自他の違いを認め合い お互いを尊重し合う子の育成	ア★ お互いのよさや努力・成長を認め合える人間関係づくり	生徒指導部 松田	△昨年度後期、児童は58%が進んであいさつできていると回答している。 ○昨年度後期、97%保護者は時と場に応じたあいさつができていると回答している。	成果 努力	S:いつでも、どこでも、だれにでも 進んであいさつをしている。 P:子供に、時と場に応じたあいさつを指導している。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない 4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4が A:80%以上 B:70%以上80%未満 C:55%以上70%未満 D:55%未満 ○4+3が A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	全児童 7・12月 全保護者 7・12月				56%	56%	C A
	イ★みんなが安心して過ごせる環境づくりと組織体制の充実	生徒指導部 松田	○昨年度後期、97%の子がいじめはどんな理由があってもいけないと感じており、児童の高い意識が見られる。 ・昨年度後期で、88%の保護者が学校はいじめに関する取組を伝えていると肯定的に感じている。しかしながら、「よくあてはまる」と回答した保護者は27%にとどまっている。 ○昨年度後期、100%の教員が迅速な対応、個人カードの記入を行っている。	成果	S:いじめはどんな理由があってもいけないと思う。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4が A:100% B:95%以上100%未満 C:90%以上95%未満 D:90%未満	全児童 7・12月 (市7)				95%	95%	B
				成果	P:学校は、いじめの未然防止や早期発見のための取組を伝えている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	全保護者 7・12月 (市7)				88%	33%	B
				努力	T:学校は、組織的にいじめ・不登校の未然防止と適切な対応をしている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満	全教員 7・12月				100%	89%	A
				努力	T:配慮が必要な児童の様子について、情報を記録・共有し、組織的な対応をしている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満	全教員 7・12月				100%	78%	A
	ウ基本的な生活習慣の定着	特別支援 C N 宮前	○昨年度不登校・不登校傾向だった児童については、組織的に対応した結果、解消したり継続して登校できる児童が増えたりした。	努力	T:登校に渋りを感じている児童や教室になかなか入れない児童に対して、ケース会議や保護者面談、校内特別支援会議などを活性化し、組織的な対応を行っている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 2:あてはまらない	○4+3が A:100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満	全教員 7・12月				94%	83%	B
(4) 自己決定し チャレンジする子の育成	ア 児童の興味関心を重んじ、ルールを踏まえた自発的・自主的活動の推進	特別活動指導部 金曾	○昨年度後期で、90%の児童が自分にはよいところがあると感じると答えていた。	満足度	S:クラスや学校にとってよいと思うことを、自ら進んで行っている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	全児童 7・12月				90%	56%	A
	イ 互いのよさや可能性を認め合い、伸ばし合い、よりよく成長し合える集団づくり			努力	T:行事などの活動では、個々に目標をもたせ、活動中や振り返りの際に児童を価値付けている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満	全教員 7・12月				100%	94%	A
	ウ運動の楽しさを味わわせる活動や体力を高める活動の充実	体育担当 笹山	△昨年度の本校の体力の総合評価が、A群+B群の割合が54.9%であった。特に握力が弱い。	努力	T:1校1プランやスポチャレ、げんきっず委員会の取組などに積極的に参加させ、年間を通して継続し運動能力の向上に努めている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満	全教員 7・12月				100%	56%	A
(5) 学校の業務改善・職員の働き方改革の推進	ア★時間外在校等時間月平均30時間以下及び80時間越えゼロ、年間360時間以下の職場づくり	教頭	△業務内容の見直しを心がけているが、全体的な取組量が多い。	努力	T:常に:自分自身の出退勤時刻を意識し、職員全体で業務改善を考えようとする職場の雰囲気をつくることに努めている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	全教員 7・12月				新		
	イ 余剰指導時間数を減らし、質の高い教育による教育課程の確実な指導	登美	○ITツール・学校CN・SSSの積極的な活用は定着している。	努力	T:子供と向き合う時間や教材研究する時間をより確保するように働き方の改革に努めている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	全教員 7・12月					100%	67% A